

## 講義ノート

### 効果的な家庭医療研修のための 目標設定のコツ

#### ■ 本日の目標

家庭医療後期研修プログラム指導医が、自分の施設における教育プログラムにおいて、評価を伴った目標を記載できるようになる

#### ■ 教育プログラム開発の6段階アプローチ (Kern 他 著, 大西弘高 訳, 2003)

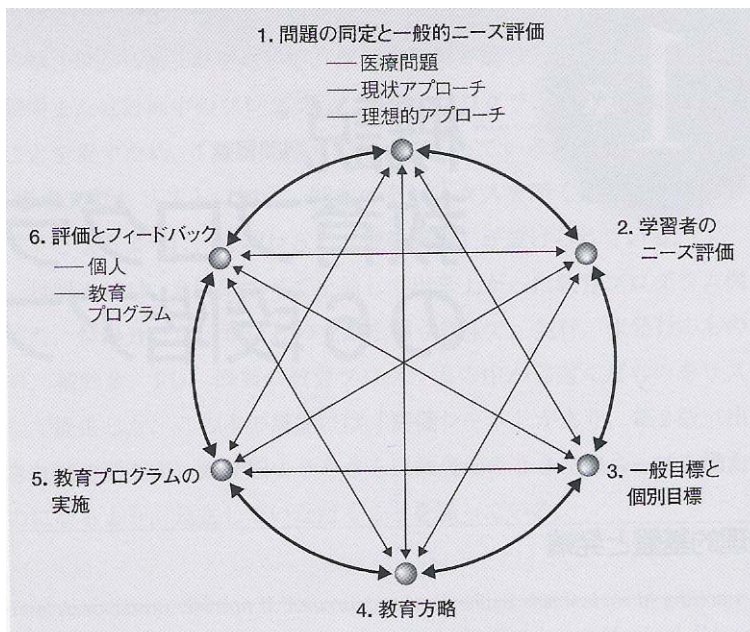


図 1.1 教育プログラム開発への6段階アプローチ

#### 教育プログラム例

##### 第1段階 問題の明確化と一般的ニーズ評価

- ビジョン 例
  - 3年間で各科のcommon diseaseを診られる医師を養成する

##### 第2段階 対象学習者のニーズ評価

- 4月の1ヶ月間で皮膚科のcommon diseaseを診られるようになりたい



### 第3段階 一般目標と個別目標

- 一般目標
  - 地方都市病院皮膚科で、(都市で働く)家庭医に必要な皮膚科のcommon diseaseを学ぶ
- 個別目標
  - 皮膚科研修修了までに、皮膚科外来患者の皮疹をみて、診断名を正しく述べられるようになる

### 第4段階 教育方略

- 皮膚科外来を受診する患者について、指導医が診察する前に皮疹をみて診断名をつける
- 指導医が、診断名が正しいか確認する

### 第5段階 カリキュラムの実施

- A総合病院皮膚科外来
- 指導医は第1診察室で診療
- 研修医は第2診察室を利用し、患者の待ち時間を利用して、同意の得られた患者について問診と診察を実施
- 上記患者と共に、指導医の診察を見学
- 診察終了後、診断名が正しかったか確認し、指導医よりフィードバックを受ける

### 第6段階 評価とフィードバック

- 学習者個人の診断のための評価
  - 正解率の推移を分析
  - 誤答の傾向を分析
- 指導医の教授方法の改善のための評価
  - 診断推論過程に一貫性があったか分析
- 学習プログラムの評価
  - 家庭医に必要なCommon diseaseを網羅したか分析
  - 研修終了後も皮膚疾患の診断をつけられているか追跡調査

## ■ 教育評価の仕組み

### ■ 教育の評価の目的

- ① 学習者の診断
- ② 教授方法の改善
- ③ 学習プログラム自体の評価

### ■ 教育を評価するための3要素

#### ■ A. 認知 (cognition)

何を評価したいと考えているのか、明確に定義することを意味する

#### ■ B. 観察 (observation)

評価対象を適切に評価するために、何をどのように測定すればよいのか明確にする

#### ■ C. 解釈 (interpretation)

収集したデータをどのように加工して目的にあわせた評価を行うかという分析手法

- プログラム評価方法の4段階 (Kirkpatrick による4段階)
  - 研修中
    - 第1段階：学習者の満足度 ……アンケート調査
    - 第2段階：コンピテンシーの習熟度 ……終了時の試験
  - 研修終了後
    - 第3段階：行動変容の持続率 ……他者からの評価、自己評価
    - 第4段階：組織や社会の変化 ……疫学的分析 など
  
- キュービック・カリキュラム
  - E. C. ラッグ (イギリスのカリキュラム研究者)
    - 全教科を横断するトピック学習のカリキュラムづくりの方法
      - ① 第1次元：各教科
      - ② 第2次元：横断的課題
      - ③ 第3次元：教授・学習スタイル
  
- 教育目標分類 (タキソノミー)

認知領域	知識	列挙する、暗唱する、提示する、区分・区別する、定義する、述べる、例を挙げる
	問題解決	区別する、分類する、判断する
情意領域	態度	価値があると評点をつける、重要であるとランクをつける、信念や意見として示す、評点をつける、ランク付けする
精神運動領域	スキル	実施してみせる
	パフォーマンス	パフォーマンスに表れる形で利用・一般化する

■教育目標と、それに対応する教育方法、教育評価

		好ましい教育方法	評価方法
認知 領域	知識	読み物、講義	多肢選択式問題
	問題解決	問題解決演習、学習プロジェクト	口頭試問
情意 領域	態度	ディスカッション、ロールモデル	質問紙法(アンケートで認識や信念を問う)
精神 運動 領域	スキル	実演見学、人工模型、ロールプレイ、録音録画による復習	直接観察法、OSCE
	パフォーマンス	指導者によるフィードバック、実地経験	診療録監査、他者からの評価

■まとめ (コツ)

- 家庭医療後期研修施設のビジョンを明確化する
- 学習者のニーズ評価
  - 最優先項目は1-2点にしぼる
- 6段階アプローチを基本とし、評価を伴う目標を記載する

■ 講師紹介 一瀬直日 (いっせ なおひ)

1999 京都大学医学部卒  
 1999-2003 医療法人社団 日鋼記念病院  
 北海道家庭医療学センター にて家庭医療研修  
 2003-2004 弓削メディカルクリニック  
 2004- 赤穂市民病院 (内科、在宅医療部、老健)

日本プライマリ・ケア学会 専門医、臨床研修指導医  
 放送大学大学院 文化科学研究科教育開発プログラム 修士課程在籍  
 (生涯教育プログラム開発について研究中)

◎ 教育歴

2003 岡田唯男先生 (当時 亀田総合病院) のもと1ヶ月間のFD研修  
 2003 日本PC学会 第7回指導医養成ワークショップ 講師  
 2004 徳島県 臨床研修指導医養成セミナー 講師  
 2005 日本PC学会 第9回指導医養成ワークショップ 講師

- 2006 日本PC学会 第10回指導医養成ワークショップ 講師  
PC関連学会連合学術会議 外来における学生・研修医指導法 講師  
2007 HANDS-FDF 講師 (ネゴシエーションスキルについて)

■ 参考文献

- 安彦忠彦「学校知の転換を図るカリキュラム開発の在り方」安彦忠彦編 『学校知の転換ーカリキュラム開発をどう進めるかー』 ぎょうせい, 1998
- 大島純 教授・学習過程論 学習科学の展開 放送大学教育振興会 東京, 2006  
学習科学の動向と展望を学習研究者が簡潔に要約した教材である。教育学における研究成果を数々紹介してある。
- 大西弘高 新医学教育学入門 教育者中心から学習者中心へ 医学書院 東京, 2005  
医学教育の方法について症例を交えながら解説した実践書。研修指導医をはじめの方は是非読んでほしい。
- Kern 他, 大西弘高 訳. 医学教育プログラム開発 6段階アプローチによる学習と評価の一体化 篠原出版新社 東京, 2003  
医学教育プログラム開発について、一度はしっかりと理論的根拠があるところから理解しておきたい。研修指導開始後にも何度でも読み返す価値がある良書である。